

5年越しの計画。長大な水泳遡行の山旅

下田川内 早出川中流部～割岩沢～光来出川東又沢下降

—石井

【日時】 2009年9月19日～23日

【メンバー】 石井（L）、斎藤、田村

早出川支流・中杉川に行ったのは2003年のことだった。本流のゴルジュの遡行もさることながら、梅雨末期の奔流に流された本流の徒渉（？）が印象的であった。その時以来、「関東周辺の沢」で「5級上」とされた本流の遡行が目標として頭の片隅にあった。祝日法の改正で9月中旬に5連休のシルバーウィークができると知ってから、その時は早出に行こうと心に決めていた。盛夏に猛威を振るうメジロもおらず、かといって標高の低さから水温も低くはないだろうから…。

5年に一度らしいチャンスを前に、運も色々と味方してくれたようだ。連休が確保できそうな職場に異動となり、心配された台風も逸れて期間中の好天もほぼ約束されたようなものだった。おまけに8月後半からの好天続きで水量の少なさが予想され、この上ない好条件の遡行ができそうで、胸が高鳴った。

9月19日 曇時々晴

前夜は早出川ダムまで入って仮眠した。気合を入れて5時起きで準備し、6時半過ぎにダムを後にする。日本平山に向かう湖岸道を進むが、アップダウンに一汗かかされる。湖面の水位はだいぶ低く、渡る枝沢も驚くほど水量が少ない。登山道と分かれて松次郎ゼンマイ道に入ると、樹林帯はそうでもないが年々藪が深くなっているようで、特に立石沢の先が酷い。ペットボトルの目印は健在で、右手の小尾根に入り、杉林の平坦地を経て丸子の上で本流に下り立つ。道が乾いていたので油断したが、例によって足回りにヒル害発生、始末してから出発する。

最初はこれが早出川？と思うような、容易な川原歩きが続くが、やがて兩岸に岩場が目立ち始め、気がつく泳ぎとなっていた。やがて長い渚が現れ、最初は斎藤君を先頭にロープ無しで泳いで行ったものの、田村さんが厳しそうなので途中でロープを出して引いたりしているうちに体が冷え、目を覚まさせられた。抜け口に左から六三郎沢が出合



始めから終わりまで長い泳ぎの連続



シゴヤを突破する斎藤君

い、どうやらここがハヨ止まりのようだ。なおも泳ぎが入るが、それほど長いものはないので順調に進む。ボフ沢先右岸の快適そうな幕場適地を過ぎ、下マサワリ沢が滝となって左岸から入る辺りから再び岩盤が発達し、泳ぎを交える。ワリ沢～ミン沢辺りは巨岩のゴロが多くいので進みは早い。上マサワリ沢前後は瀬が多く、できるだけへつって進み、だめなら泳ぐといったところ。大きいのこそ居ないのだが、

魚影も走るようになってきた。

やがて今までになく両岸が狭まり、碧い水を湛えた長いゴルジュが現れる。今日一番の核心部と思われるシゴヤのようだ。ここは迷わずトマ最強のスイマー・斎藤君にトップを任せる。空身でロープを引きながら力強いクロールで前進、岩陰に消えてからしばらくして先の方で姿が見えた。セカンドで石井がそのまま泳ぎ、厳しい部分のみロープに頼り、田村さんはザックピストン、というのが基本システムだ。ロープを50m+30mで使う長さがあり、最初は流れのない瀬だが、抜け口の水流が強くて這い上がりにくい。全体でもここが一番厳しかったと思う。

さらに長い泳ぎが続き、今度は石井トップで通過するも、お互いが見えない状態で意思疎通ができずに逡巡した。それでも今日は予定通り進んでいるので、お楽しみの釣りタイムとする。どうがん沢の先まで淵を交えたポイントが続き、魚影も濃い方なのだが、水温が高いせいか岩魚の動きが鈍くて全く餌を食わず、3人ともボウズにて終了。出合先の川原にツェルトを張るが、薪も少なくても心も体も少々肌寒い？一夜であった。

9月20日 曇時々晴

朝は泳ぐには少々寒いので、ゆっくりめの出発。しばらくで岩畳の広がる開けた溪相となるが、再び幅の狭いゴルジュとなってへつりを繰り返して進む。50mほどの泳ぎを越え、これがコモリ淵か、楽勝！と思いきや、本物はその先、シゴヤより不気味に狭まった間に瀬を湛えていた。ここも昨



コモリ淵を行く斎藤君

日のフォーメーションで進むが、中に水の入るザックピストンに替わり、せっかく持ってきたので田村さんの子供用浮輪が活躍。膨らます面倒はあるが浮力は十分だし、藪に入ると嵩張るライジャケより有利？と思う。

コモリ淵を過ぎると一転して谷が開け、明るい川原とブナ森の広がる平和な世界に変わり、ヨシノ沢の出合となる。左右に容ヶ谷と清水沢を分ける辺りには釣師と思われるテントもあり、中流部の核心を抜けた感がした。天気は曇、時折日も差すわりに雨もぱらつき、いまいち不安定だが、気は楽になった。それでも再びゴルジュとなり、へつりとワンポイントの泳ぎで処理していく。やがて瀬の奥に厄介そうな落差をもったゴルジュが現れ、果たしてどうしたものかと考えていると、斎藤君が突っ込む、というので、後の二人が無理だよ、と宥めすかして左岸の台地に上がる。ゴルジュを覗くと、本流が荒れ狂っているが、上がってしまえば平和なブナ森で、田村さんは茸探しに余念が無い。踏跡らしきが広倉沢の屈曲点に下っており、本流に下り立つと暫くは平凡なゴーロが続き、距離を稼げた。今出まで10分くらいの所でコスゲ淵となり、左から巻けそうだったが敢えて中を行き、20mほどの泳ぎ2回で淵と釜を越えていく。

今出にはほぼ予定通り昼過ぎには着いたので、迷わず割岩沢へと入る。連休だし、ここからは人に会うことも多かろうと思っていると早速ツエルトがあり、少し先で単独の釣師に出会った。聞けば今早出沢に3パーティー15人も入っており、割岩沢下降の予定だという（後述：足の速い3人P、ぶな・さがみの各6人P）。

さしもの早出川も一大支流の今早出沢を分けるとだいぶスケールが小さくなり、ゴルジュは多いものの、水量が少ないせいもあって泳いでもワンポイントだ。ゴーロの部分も多いので、進みは早いのだが、悪く言ってしまうとやや単調なきらいがある。ただ、水温が下がってきたせいか岩魚の動きが何時ものようになってきたようで、ユウ沢出合で休んでいた時に田村さんが早速一匹釣り上げた。今止まりは何となくそうかな、といううちに過ぎてしまい、久しぶりに大きな釜が出てきたな、と思ったらひょうたん淵だった。今日もある程度のところまで来たので、ここで釣ることにする。9寸止まりであったものの、そこそこのサイズで一人2匹キープで満足できた。

滝は左から巻いたが、最初は巻きすぎてしまい、少し戻ってクライムダウンした。暫くで左岸には見事なスラブが広がり、谷自体は川原の続く適地となったので、迷わずツエルトを張る。暗くなる頃、韋駄天の3人Pが下降してきた。昨日と違って薪も大量に有り、豪快に燃やして暖をとり、溪の幸に舌



<http://www.1>

岩魚と焚火と星空に恵まれた至福の夜

鼓を打つ。焚火の傍でゴロ寝して見上げれば満天の星。あ～幸せ…。



ジッピーでは子供用浮輪が活躍

9月21日 晴

幕場から左右にスラブを見ながら行くと、30分ほどで前方にジッピーが見えてきた。これまで開けていたのに、急に、という感じだ。暗い岩の割れ目に深々と碧い水を湛えて少々不気味だったが、斎藤君を先頭に泳いで進むと35mほどで足が着き、通過自体は問題無い。なおも狭いゴルジュに小滝と釜が連続し、ツッパリや泳ぎで楽しく突破していく。Y字の北俣沢出合を左に入り、ゴルジュと2段滝を越えると左に曲がり沢を分け、小滝を越えていくと大釜の3mとなる。今日も順調なのでここで最後と思われる釣りをする。刺身目的で大きいのだけ狙って粘ったものの、仕掛も十分でないので果たせず、中サイズも全てリリース。

続く3段8mは巻くのも悪そうなのでロープを出して直登していたら、上からぶなPが下降してきたが、こちらの連係の悪さが露呈してしまい恥ずかしかった…。

西俣沢を右に分けると堰堤状の滝、ゴーロを経た暗いゴルジュの奥に懸かる6mは面倒そうなので左から巻く。沢床の低い支流の出合は左の本流の滝を登り、しばらく進むと伏流となってしまう。暑いくらいの青空の下、水のない急なゴーロを進むと細い水流が復活し、左右に支流を分けて源頭らしくなってくるが、大滝こそないものの、手のかかる滝が多い。6m滝は細かい右の垂壁を斎藤君リードで登り、続くCS滝は空身で登って荷揚げする。ゴーロの先には25mの大滝が控え、一服してから比較的傾斜の緩い水流右側を斎藤君リードで登るが、リスが乏しいので時間がかかる。大きなCS滝を右の隙間から越え、二分する水流は左に入る。小ゴルジュの奥にあるぬめった10m滝は石井リードで左から登る（残置あり）。12m滝を右から巻き気味に越えるとゴーロが続くようになり、割岩沢もいよいよ詰めとなる。矢筈ピークまで距離にして300m位だが標高差も300mあり、昨年の棚橋Pの記録でも詰めが草付の悪いスラブだと聞いているので、ここ



25m大滝をリードする斎藤君

は山頂東側に詰め上げるルンゼに入ってみる



念願の矢筈岳ピークにて

ことにする。だが、最初の10mを登り、続く15mが悪そうなので左のリッジから登って巻いてみたところ、その先も登り辛い涸滝が続いて厄介そうなのでそのまま尾根を目指すことに。尾根に出れば傾斜もきつくはなく、藪もそれほど酷くはないものの、藪慣れしていない斎藤君には大分苦労をかけてしまった。稜線に出るまで2時間かかり、結局ピークを目前にして日没でタイムアウト、藪の中で個々にツェルトやタープを

被ってガスを焚き、ビバークでやり過ごすこととなった。

9月22日 曇時々小雨のち時々晴

やや出遅れて6時半に行動開始、20分ほどで矢筈岳ピークに到達。雲が低く垂れ込めてはいるものの、栗ヶ岳など近場の展望は楽しめた。東又沢に向けて稜線を行くが、痩せ尾根の頂上付近は踏跡もあるものの、北上となってからは尾根が広がって踏跡が消え、地形も二重山稜気味となって分かりにくい。池の畔に出たりして軌道修正しながら下降していくと、斜度が出てきてようやく沢型がはっきりする。ゴロが多いものの、出てくる涸滝は懸垂が必要なものが多く、良く見ると捨縄もあったので、どうやら昨年の棚橋Pと同じ沢に入れたのであろう。4回の懸垂を経て大ガレに飛び出し、淡々と下っていくと滝場が現れてくる。斎藤君や田村さんは沢下降にそれほど慣れていないので、可能なところは二人に懸垂で下りてもらい、石井が最後に無理矢理クライムダウンするパターンで進む。

ゴルジュの中に直瀑を落とす15m滝は右岸を一部空中懸垂で下る。その後は落差こそ無いものの、兩岸が立ったゴルジュに無数の小滝と釜が連続し、クライムダウンと飛び込みで応戦していく。右から大きな支流を迎える辺りから谷が開け、317m標高点からはだいぶ穏やかな印象の沢となり、魚影も走るようになる。光来出川が近くなった辺りで急に兩岸が狭まり、3m滝から大釜に飛び込み、続く淵は泳いで通過する。その先は棚橋Pの写真にもあった、幅1.5mほどの見事なゴルジュとなるが、通過自体は腿までの深さの奔



15m滝を懸垂で下降する

流なので、下降は容易だ。

東又沢よりやや水量の多い光来出に出た



光来出川を泳いで下る



21時過ぎ、笠堀ダムに到着

時点で15時、ヘッデン行動は仕方ないとして、湖岸道に出るまでは急がなくてはならない。光来出は概ねゴーロとへつり可能な湧が続いて順調に進んだが、栃ノ木沢を過ぎる辺りから泳ぎが頻繁に出てくる。白根沢出合の湧を過ぎ、プール大の大釜は左から慎重にクライムダウンして下降、釜の左をへつる。大川と白根沢の中間辺りで大規模なゴルジュとなり、下降困難となったので左岸を登ると湖岸道の踏跡に出た。思っていたよりはしっかりしていたので、沢から上がって進む。

樹林帯などでやや踏跡が薄くなるものの、概ね分かりやすい。夕暮れのゴルジュに行くよりいいが、川原歩きよりは時間がかかりそう。

大川出合辺りから闇が迫る。登山道並の道ではあるが、ヘッデン行動となると時間がかかる。斎藤君が足を痛めており、微妙なアップダウンに消耗させられるが、元気な田村さんが先頭で引っ張ってくれて助かった。闇夜に光るダムのサーチライトがワンドを経る度に明るくなり、21時過ぎにようやく笠堀ダムに到着。寝巻き姿のダムの管理人に水を頂き、駐車場にツェルトを張って泊まる事にする。

翌朝、笠堀集落辺りからのバスに期待したが、休日で運休。小雨の降る中、国道をポクポク歩いて八木鼻近くの「いい湯らてい」まで行く。バスで燕三条に出て、レンタカーを借りて早出川ダムの車を回収する。バッテリーが上がっていたのでプラグを繋いだが、タクシーでなくて良かった…。さくらんど温泉にて打ち上げとし、村松で土産を買い、燕三条でレンタカーを返して渋滞の少ない関越にて帰京した。

<感想>

【石井】 念願の遡行が叶い、感無量。近頃子連れクライミング&旅行etc.で2泊以上



の沢は昨夏の栗代川以来、ビッグルートは飯豊川以来で心配だったが、不思議と体が動いていたように思う。後半2日の長時間行動の翌日でも疲れが少なかったのは奇跡？に近い。ルートに関しては、本流遡行に重点を置いたため、特に下降ルートに関しては情報のある所ということで、昨年の棚橋Pの記録を利用させてもらった。この場を借りてお礼を述べたいと思う。出発前は色々心配されもしたが、決定的に不味い場面は無く、3人がお互いの弱点をカバーしながら遡行できた感があり、結果的には心に残る良い沢旅だったと思う。

【斎藤】悠然と流れる長い川の遡行を夢見ていましたが、その夢がかない感激です。イワナ、焚き火、満天の星、どれも忘れられません。来る日も来る日も淵で泳ぐことができ、とっても幸せな日々でした。石井さん、田村さんありがとうございます。

【田村】登攀力や泳力の不足、さらに下田川内の沢が初体験という私がこの計画に参加することについては、行ってもいいものかずいぶん自問自答した。しかしあきらめずに参加したのは、自分の殻を破るという意味で、結果的に非常によかったと思う。滝でも淵でも頼りっぱなしで、自分の力で登ったとはお世辞にも言えないものの、足りない部分を自覚したり、ステップアップのヒントを得ることができ、実に有意義だった。

もちろん、計画を完遂できたことは本当にうれしく、今でも信じられない思いである。こんな私を連れて行ってくれたメンバーに心から感謝したい。

【コースタイム】

9月19日 早出川ダム (6:40) - 丸子 (9:15/45) - 上マサワリ沢出合 (13:15/30) - シゴヤ先 (14:55/15:15) - (釣り約1時間) - どうがん沢出合上C1 (17:00)

9月20日 C1 (7:00) - ヨシノ沢出合上 (9:20/40) - 今出 (12:20/35) - ユウ沢 (13:50/14:15) - ひょうたん淵 (釣り) (15:20/16:00) - 割岩山スラブ下C2 (16:35)

9月21日 C2 (7:00) - 北俣沢出合上 (釣り) (8:20/9:20) - 西俣沢出合上 (10:50/11:15) - 25m滝下 (13:30/50) - ルンゼ下 (15:40) - 矢筈岳手前C3 (18:25)

9月22日 C3 (6:30) - 矢筈岳 (6:50/7:00) - 稜線下1050m付近 (9:00/15) - 大ガレ下部 (10:50/11:05) - 光来出出合 (15:05/20) - 石小屋沢 (17:30/40) - 笠堀ダム (21:05)

9月23日 笠堀ダム (6:15) - いい湯らてい (8:05)

【地形図】 1:25000 高石、室谷、栗ヶ岳

【グレード】 トータルで5級



